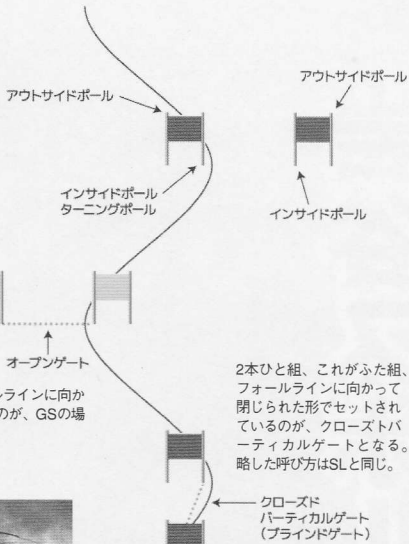


GS

GSの場合は、2本のポールがフラッグ状の布でつながれたものをひとつとしてとらえ、これがふた組で1双旗とみなされているので注意。だからSLとは違い、アウトサイドポールもインサイドポールも2本ずつ存在することになる。そして、ターンするほうのインサイドポールがターニングポールとなる

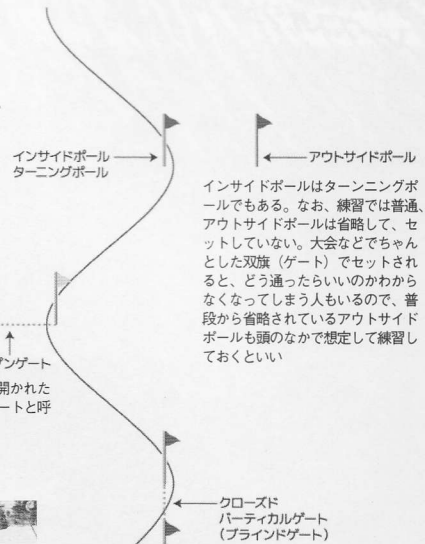


2本ひと組、これがふた組、フォールラインに向かって開かれた形でセットされているのが、GSの場合、オープンゲートとなる。



SL

双旗と呼ばれる、赤、青、2本ずつのポールの間を滑走していく。とにかく2本の間をスキーが通過していればよいので、上から入っても、下から入っても、その通り方は自由。いちばん速い通り方をチョイスするのが選手の裁量



選手側からすると、2本のポールは開かれた形で位置しているのが、オープンゲートと呼ばれる



インサイドポールはターニングポールでもある。なお、練習では普通、アウトサイドポールは省略して、セットしていない。大会などでちゃんとした双旗(ゲート)でセットされると、どう通ったらいのかわからなくなってしまいう人もいので、普段から省略されているアウトサイドポールも頭のなかで想定して練習しておくといい

この長いネーミングは省略して、「クローズドゲート」とか「パーティカル」また、選手からは2本のポールが開けていて見えにくいという意味で「ブラインド」と呼ばれることもある

ポールセット 初級講座

今回は、アルペン競技の国際ルールに基づき、種目とポールセットの概略を解説。大体のイメージを理解していただければ、OK。なお、DH、SG、GS、SLの標高差は、各国際大会で違いがあるので注意(日本の草大会はもっとスケールダウン)。おおまかな目安として見てほしい

GS



標高差は250~450m。方向転換を必要とする旗門数は標高差の11~15%。最近のW-CUPレースでは、タイムにして、1分10秒前後のコースが平均的。日本の草レースでは、1分を超えるレースの数は少なめだ

SL



標高差は180~220m。旗門(双旗)間の間隔は62.75cm~15mで、W-CUPでは最大13.5mまでで、やや短くなる。方向転換を必要とするターン数はW-CUPで55~75(+3)

DH



標高差の規定は800~1100m。しかし、例外として750mというのも認められており、コンチネンタルカップでは650m~、FISレースでは500m~と規定が違う。なお、日本ではあまり行われないう種目となってしまった。2本のポールを布でつないだゲートが双旗で、赤でセットされる

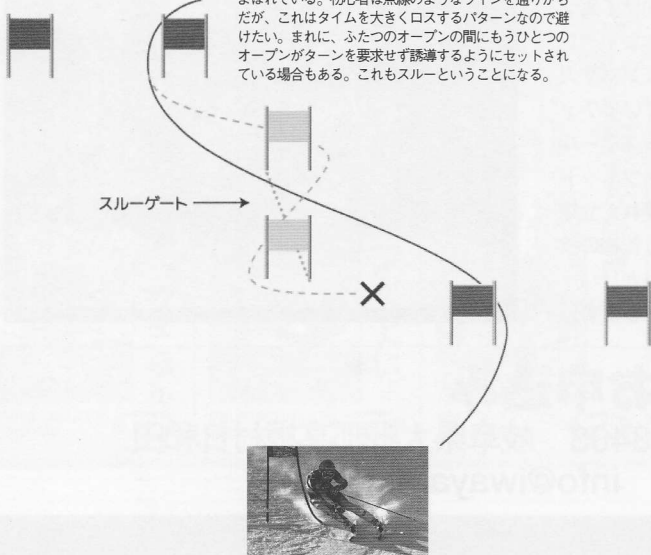
SG



標高差は500~650m。方向転換を必要とする旗門数は35以上。インターバルは25m以上。標高差の10%が旗門数の目安。DHのスピードとGSのターン、ふたつの要素を掛け合わせたような種目で、選手にはターン中に最も強烈なGがかかってくる

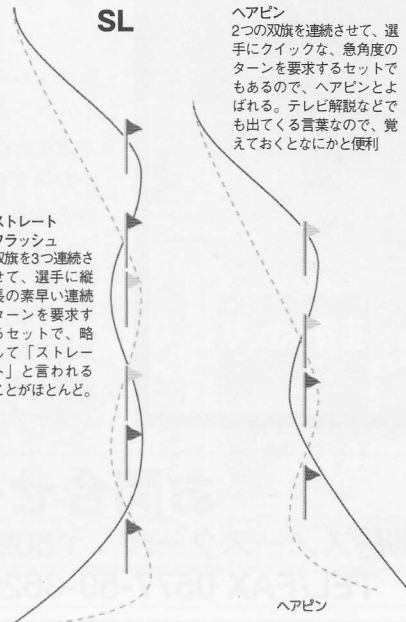
GS

ふたつのオープンゲートの間にパーティカルゲートが配置されているような場合、このパーティカルはスルーしてターンしないことからスルーゲート、略してスルーとよばれている。初心者は点線のようなラインを通りがちだが、これはタイムを大きくロスするパターンなので避けたい。まれに、ふたつのオープンゲートの間にひとつのオープンゲートターンを要求せず誘導するようにセットされている場合もある。これもスルーということになる。



SL

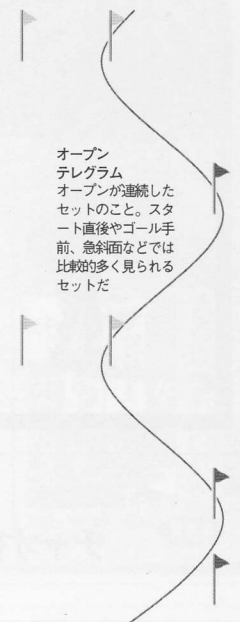
ストレートフラッシュ
双旗を3つ連続させて、選手に縦長の素早い連続ターンを要求するセットで、略して「ストレート」と言われることがほとんど。



ストレートフラッシュ

ヘアピン

ヘアピン
2つの双旗を連続させて、選手にクイックな急角度のターンを要求するセットでもあるので、ヘアピンとよばれる。テレビ解説などでも出てくる言葉なので、覚えておくとなにかと便利



オープンテレグラム